

# 中海は宝物

未来守りネットワーク活動記

<21>

「海藻農法普及協議会」は未来守りネットワークが中心となり、中海の水質浄化、第1次産業の振興、まちづくりなどを目的に、NPO法人、行政、他業種が参加して構成された地域資源循環型再生事業組織です。

昔のように中海の海藻を有効活用することで、漁業者には中海の水質浄化と漁業資源再生、農家には有機栽培や減農薬・減化学肥料、消費者には食の安全・安心を提供できます。御売、小売、飲食業は他店との差別化になると期待しています。

協議会は昨年、山陰、関西、九州などでイベントや講演会を開き、海藻農法の

## 海藻農法の「クニ」

普及や農作物販売に取り組ましました。水木しげるロード(境港市)近くで開催した「海藻農法でできた野菜市」は、コマや野菜・根菜類を提供し、市民、観光客に好評でした。

試食会でアンケートしたところ、回答の中に、海藻農法による農作物は甘さ、つや、食感などが良く、体に優しくて安全・安心を実感できるとありました。集計結果は各農家へ報告さ

## 人の和大切に組織構築

れ、農作物のブランド化に向けた第一歩を踏み出す大きな力となっています。小規模の出前説明会を含め、講演会も多数開催して

います。中海産海藻特殊肥料(ミネラル海藻)の特性や仕様などを説明し、農家の疑問に答えています。微量要素などの補給。連作障害の土地では有機微生物

の増殖による土壌改良、生育や発根の促進が期待できます。病害虫に対する抵抗力もつき、健全な植物に育ちます。

継続的に使うことで改善効果が促進され、多少の塩分は多くのミネラル成分を含むため農地に良いという近年の報告事例を紹介し、随分と理解されるようになりました。協議会では、初めて海藻農法に取り組み場合、まずは小規模な試験栽培をして、その結果を踏まえてから本格的な栽培をしてもらっています。

各種イベントや講演会を重ね、多くの仲間とともに山陰地方で海藻農法の「クニ」をつくりたいと考えています。そのためにも協議会は、人の和を大切にしながら地道に活動する組織を構築してまいります。

(未来守りネットワーク 理事長・奥森隆夫)



昨年10月、境港市内で開いた初の野菜市。市民や観光客に好評だった